

第 13 回日本頭蓋顎顔面外科学会学術講習会報告記

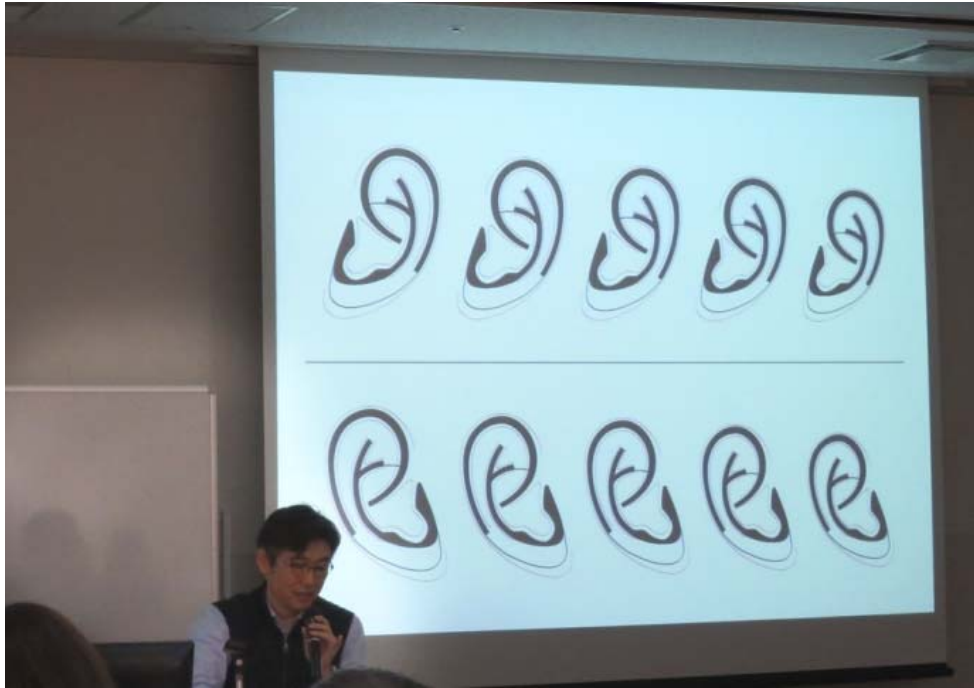
学術委員長 帝京大学形成外科 小室裕造

第 13 回日本頭蓋顎顔面外科学会学術講習会が第 35 回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会の終了翌日の 2017 年 10 月 18 日（土）に博多の電気ビル共創館にて開催されました。

今回のテーマは「小耳症フレームワーク制作実習」です。



講師は北海道大学の小山明彦先生、久留米大学力丸英明先生です。
お手伝いいただいた faculty は沖縄県立中部病院の石田有宏先生、東海大学の赤松正先生、長崎大学の矢野浩規先生です。



メイン講師の北海道大学小山明彦先生

全国から 20 名の若い形成外科医が参加してくれました。
まずは力丸先生より「よい耳をつくるために」の講演、unfavorable result を含めたご自身の経験から小耳症再建の難しさの話があり、確実な技術を習得する重要性を強調されていました。

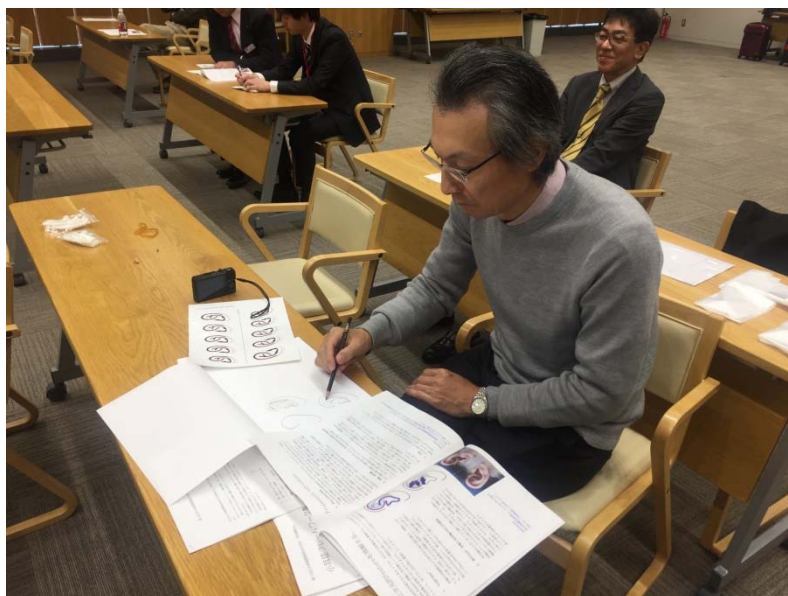


講師の久留米大学力丸英明先生

その後小山先生によるワークショップがおこなわれました。
まずはデッサン。耳介の形状をリアルに描くコツを教えてください皆で鉛筆を使って耳介のお絵かきです。耳介らしい絵を描くためのプロポーシオンを理解することで簡単に耳介の絵が描けるようになるという説明でした。皆、瞬く間に上手な絵を描けるようになりました。



絵心のある女性の先生



委員長も参加です。

コーヒブレイクですが、納得しない先生は絵を描き続けていました。

続いてジャガイモを使つての耳介の彫刻です。

包丁でジャガイモを切つて、11番メス、彫刻刀を使つてジャガイモに耳介の形を彫っていきます。立体的な耳介に見えるコツを教えてくださいました。大切なポイントをおさえることで見違えるようなリアルポテト耳の出来上がりです。



小山講師のデモ。アツという間に削っていきます。



皆さん真剣です。

昼食タイム。皆でお弁当をいただきます。

午後は、実際の肋軟骨フレームワークの術中ビデオを見せていただきました。質問に対しては途中で止めて解説をしていただきリピートして再生することで理解が深まりました。

いよいよ最後にメインイベント。シリコン製の肋軟骨の実体モデルを作成してのフレームワーク作りです。CT データから作製した第6, 7, 8肋軟骨のモデルが配られます。さっそくメス、彫刻刀をもって作業開始です。



肋軟骨モデル

一心不乱に作業に没頭、部屋には彫刻刀を動かす音だけが響き、時々講師の指導、励ましの声が届きます。実際の肋軟骨とはやや勝手が違い切りにくいですが皆さん慎重に彫刻を動かします。ベースができたところで8番肋軟骨を耳輪の位置に合わせてワイヤリング固定。ワイヤーをきれいな螺旋で巻くのが大切です。

皆さん何とか耳介フレームワークを作成することができました。



小山先生からお褒めの言葉をいただいた久留米大学橋口先生の作品



参加者全員で記念写真

参加者の声

「難しい小耳症の作成が良く理解できました。」

「小耳症の手術は助手に入ったことしかなかったけれど、今度は肋軟骨フレームを作成したい。」

などなど

朝 9 時から午後 5 時までの長丁場でしたが、あっという間のセミナーでした。皆さんの真剣な取り組み、終了後の達成感いっぱいの表情が素晴らしかったです。

講師の小山先生、準備していただいた力丸先生はじめ久留米大学のスタッフの方々本当にありがとうございました。